

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)制御機器センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)201
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境								2.7
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音				4.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		広大な敷地の中にあり、山海に囲まれ静寂である。		4.0	1.00	-	-	
2 隣隣騒音対策		また、作業も手作業が中心で、作業騒音はわずかしかな発生しな		-	-	-	-	
1.2 遮音				2.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能				2.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				1.6	0.35	-	-	1.6
2.1 室温制御				2.2	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性				1.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	
1 昼光率				1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	-	-	
3 遮り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気環境				4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		構造躯体は鉄骨造であり、室内は下地共すべて「規制対象外		5.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		建材」および「F4☆☆☆☆」建材を使用している。またVOC放散		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		少ない建材を使用し、特に塗料については配慮している。		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		熱源はすべて電気であり、ボイラーや厨房機器、ガス設備等の燃焼		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		機器の排気口は設置していない。また広大な敷地の中にあり		4.0	0.33	-	-	
4 給気経路		充分に新鮮な空気を取り入れることが可能である。		-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8
1 機能性				2.5	0.40	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-	
3 パリアフリー計画				1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3 内装計画				1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		品確法(性能表示)等級2相当;鉄部は表2-区分1-a、区分2-e相当		4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		※表2は、H21告示第354号第5、3、3-1、(3)、D、②、a、(i)による①a(i)		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		石膏ボードにクロス貼または塗装であり、官庁登録値で20年である。		5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水B、汚水排水B、雑排水Bであり、Eは使用しない。		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		変電設備・動力盤・排送風機等、主要設備は20年~25年である。		4.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			2.7	0.29	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり			2.4	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり		2.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	-
3.3 設備の更新性			2.8	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		2.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.36	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		全室の外壁・屋根に断熱材を施工し、主居室はペアガラスを使用。	4.0	0.11	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.26	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	屋根上に太陽光パネルを設置している。	4.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		省エネ型機器使用;CEC/Lは事務所0.61(空調150P)、工場0.69。	4.3	0.38	-	-	4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=22.7%	4.3	-	-	-	-
集合住宅の評価			9.0	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.26	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水型便器、擬音装置付とし、水栓は節水コマ付としている。	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	Eコマ取得したタイル;ダンテ-株式会社 クラディティ 風除室床	3.0	0.21	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	外壁・屋根;鉄骨(胴縁)+鋼板+ボード、OAフラーの採用。	5.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン発泡剤;CO2使用。グラスウール断熱材使用。	5.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		評価対象値;59.54Kg-CO2/年・㎡、参照値;66.40Kg-CO2/年・㎡	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1	大気汚染防止	ボイラーや厨房機器、ガス設備等の燃焼機器は使用していない。	5.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制	従業員用駐輪場を設置し、また100台分の駐車を整備してい	5.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	多種類のゴミが分別可能な廃棄物ヤードを設置している。	4.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-